

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500775
法人名	有限会社 おきた建築
事業所名	ぐるうぷほーむ 砥辺
所在地	愛媛県伊予郡砥部町原町260番地
自己評価作成日	平成22年2月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家を改造したホームで、昨年改築工事も行い、利用者様が穏やかにゆったりと過ごす空間が増えました。玄関には常に花を生けており、家庭的な雰囲気があり、笑顔の絶えないホームです。食事はすべて利用者様と一緒に手作りし、ホームの畑で採れた野菜や地物の食材を多く取り入れ、利用者様にはとても好評です。医療面においても、日々の健康管理や観察を丁寧に行い、町内にある協力医療機関と密に連携がとれています。また、職員間の連携もとれており働きやすく、利用者様とも良い馴染みの関係が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地元の小学校との交流があり、小学校の運動会に飾る紅白のペーパーフラワーを毎年、利用者職員で作って贈ってられる。又、小学4年生のボランティア活動の訪問があったり、6年生が卒業前に歌や紙芝居、リコーダー演奏等に訪れてくれている。年末には、地域の方も一緒に餅つきをされている。散歩や買い物の際には、地域の人から声を掛けてもらうようなことも多いようである。調査訪問時、利用者がすり鉢でごまをすったり、サツマイモの皮をむいて昼食の支度を職員とともにされていた。事業所では、噛む力のある間は、食材の切り方や柔らかさ等、調理を工夫して形のある食事を提供できるよう支援されている。介助の必要な方の中には、スプーンよりもお箸の方が食事がすすむような方もあり、それぞれの状態等もみながら支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほーむ 砥辺

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

渡部優子

評価完了日

22年 2月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域に密着し、家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活できるように、また、家族様と共に支え合うことを踏まえた理念を掲げている。毎月のミーティング時には、日々の支援の中で理念を共有し実践できるよう話している。	
			(外部評価) 事業所では「私たちは、住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと、その人らしさを大切に、穏やかで安心した暮らしが継続できるようご家族とともに支援します。」と理念を掲げ「利用者一人ひとりのその人らしい暮らし」の支援に努めておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域とのつながりが強く、職員も町内の方がほとんどである。散歩に出たときなど、ご近所の方と挨拶を交わしたり、理容店・美容院等も地元を利用している。毎日の買い物も地元のスーパーを利用しており、顔見知りになっている。地元の小学校との交流会や地域のお祭り等にも参加し、地域とのつながりを大切にしている。	
			(外部評価) 地元の小学校との交流があり、小学校の運動会に飾る紅白のペーパーフラワーを毎年、利用者と職員で作って贈っておられる。又、小学4年生のボランティア活動の訪問があったり、6年生が卒業前に歌や紙芝居、リコーダー演奏等に訪れてきている。年末には、地域の方も一緒に餅つきをされている。散歩や買い物の際には、地域の人から声を掛けてもらうようなことも多いようである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域やご近所の方の相談を受けることもある。また、必要であれば、地域包括支援センターへつなげることもしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議ではさまざまなテーマで、事業所の取り 組みを報告している。地域の方からの出席も少しずつ 増えてきており、アドバイスをいただくこともある。 ご家族の出席は決まった方になりがちであるが、入居 者もを交えた運営推進会議を年末に行った。	
			(外部評価) 運営推進会議は、地域内にある法人内の系列グループ ホームと合同で開催されている。時には夏のそうめん 流しや年末の餅つき等の行事と合わせて会議を行い、 利用者とも交流していただいたり、入浴リフト試乗説 明会や新型インフルエンザについて等、参加者が関 心のある議題等も採り入れて行っておられる。避難訓練 の報告や自己・外部評価、家族アンケート等の報告等 については系列の事業所別々に会議を行い、より具 体的に報告されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には必ず出席していただいております、何 でも相談できる関係にある。	
			(外部評価) 地域の方から介護サービス等について相談を受けた際 には、必要に応じて地域包括支援センターにつなげて おられる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束のないケアは実践できている。職員も理解し ている。ただ、玄関の出入りを示すチャイムに関し ては、職員の配置、利用者様の状況により、出入りが わかるように設置し、適宜使用している。	
			(外部評価) 管理者は「利用者の普通の生活を支えるために気を付 けて」おられ、内部研修等で身体拘束について職員で 勉強して、拘束をしないケアに取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待があってはならないことは職員個々が熟知している。気持ちに余裕を持って利用者様と関わり、職員の行動や言動に気をつけるよう常に話している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 代表や管理者は権利擁護や成年後見制度について理解しており、相談があれば適切にアドバイスを行うことができる。今年度研修にも参加した。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも、連絡して下さいと伝えている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には意見や要望は遠慮なく伝えてほしいと常に話している。また、職員は来訪された家族に利用者の普段の様子を細かく話すよう心がけ、家族の思いや要望などを汲み取るように努力している。 (外部評価) 事業所では2ヶ月毎にホーム便りを発行して利用者の日々の暮らしぶりを報告されている。ご家族が心配されている健康状態等を電話や携帯メールで利用者の様子を伝えるようにされて、ご家族との信頼関係を築くことを大切にされており、より多くの意見や要望を出していただけるよう取り組まれている。	事業所では、ご家族の意見や要望を聞かせてもらいやすいように座談会を行うことを計画されている。ご家族とともに利用者を支えていけるよう、今後もご家族との関係作りに工夫していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングや勤務中にも話すことは多々あり、職員の意見や提案を聞いて、できることは反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員手作りの大きなカルタを使って、利用者と楽しませられている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員にとって働きやすい環境や働きやすい条件となるよう、可能な限り努力している。今年度は職員の腰痛改善に向け入浴用リフトを設置した。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修の案内を必ず職員に知らせ、希望者は研修に参加できる体制にしている。また、今年度から奇数月に所内研修を開始した。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>代表や管理者は同業者と交流する機会があるが、現在は職員同士の交流はない。しかし、職員個人が研修等で知り合った方と情報交換することはある。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人が納得して入居できるよう、できる限り努力している。入所前に面談をしたり、体験入所で泊まっていたりもしている。また、入居後は関わりを多く持ち、不安のない穏やかな生活ができるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安に思っていることや、困っていることなど、また要望などは遠慮をせずに気軽に話してほしいと家族には常に伝えている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様がスムーズに入居できるようホームに通ったり、お試しでの入居も受け入れている。また、入居前には職員が訪問し、馴染みながら入居できるような支援も行っており、常に柔軟に対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 女性の利用者様には家事などを一緒にしていただいている。男性の利用者様には男性ならではの力仕事などを一緒にしてもらっている。共に生活しながら支え合うという関係性を大切にしている。また、利用者様から職員へ労いの言葉をいただいたり、冗談を言い合ったりして心通わせ、いろいろ学ぶことも多い。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様を共に支えるために面会に来られた際には、状態を報告したり、家族様にお願いごとをするなど、支え合える関係が築けるよう努力している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様にも馴染みの方にホームに面会していただくよう、お願いしている。友人が直接ホームに訪ねて来て下さることもある。できる限り、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 (外部評価) 幼なじみの方が定期的に訪問してくれ、時には、ご本人が使い慣れた化粧品を持って来てくれることもある。知り合いの方と電話でお話されたり、時には、ご家族とお墓参りに出かけて外食して帰られることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員と一緒に会話を楽しんだり、歌を歌ったり、ゲームをしたりして、楽しい時間を過ごすようにしている。また、日々の生活の中で利用者個人の思いや感情を深く観察することにより、利用者同士のトラブルや孤立が起きないように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には今後も相談に乗れることをお話している。他のサービスへ移行する際には、詳しい介護サマリーを作成し、しっかりと申し送りをしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様との日々の関わりの中で、思いや意向が汲み取れるよう努力している。また、家族様からも情報を得られるよう面会に来られた際には、いろいろ話を聞くようにしている。更に、様々な角度からコミュニケーションを多くとるよう心がけている。 (外部評価) 職員は、利用者の思いや意向を日々の関わりの中から汲み取り、事業所独自のフェイスシートやアセスメント表に、ご本人の声やご家族からのケアへの要望や希望、意見等の情報を記録されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者様、家族様よりアセスメントシートを元に、聞き取りを行い、今までの生活歴を把握するよう努めている。また、ケアマネージャーや関係機関からも情報を得るようにしている。入居後も日々の関わりの中から、利用者様の話や家族様に聞くなどしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ミーティング時には利用者様ごとの話し合いを持ち、全職員が現状を把握するよう努めている。また、受け持ち担当を決め、利用者様ごとに密な関係が築けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>ミーティング時に入居者の生活や日々の関わりを踏まえて、担当職員と計画作成担当者が話し合いをしながら、介護計画を作成している。評価や立案したプランを報告し、家族様にも要望や意見をいただき、最終的な作成をしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>前回の外部評価を受け、日々の記録に介護計画を添付して、プランに沿ったケアが実践できるようにされていた。ご家族から「穏やかに過ごして欲しい」というような要望もあり、ご本人が役割を持って生活出来るような支援に努めておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>今年度に記録の研修に参加し、簡単な現状の記録だけでなく、もっと入居者様の言葉を大切にしたい記録ができるように取り組んでいる。ケアプランのケア内容に即した記録は別の欄に印をつけるようにしている。バイタルサインや排泄の状態、食事量、水分量等に関しての状況は毎日把握し、記録している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>通院介助や入退院のお迎え、個別外出の支援、家族様への食事の提供など、いろいろなケースや状況に対しては常に柔軟な対応がとれている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>ボランティアや民生委員、地域包括支援センターなどと協働したり、町内のイベントにも参加し、よりよい暮らしが継続できるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>協力医療機関のみならず、希望される医療機関を受診 できるよう常に支援している。協力医院からは、月1回 の往診があり、密な連携がとれている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>いざという時には、協力医療機関に、24時間受け入 れてもらえるようになっており、入院の際には付き添 いはしなくてよいようになっている。入居時の受診時 に病気が見つかり、大事に至らなかったというような 事例もある。整形外科でのリハビリは送迎してくれる ようになっており、歯科は訪問診療で診てもらえる 等、ご本人ご家族が選んだり決めたりして、納得のい く医療が受けられるように支援されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ホームには看護師がおり健康管理や、急病時に適切な 対応がとれている。また、協力医療機関の訪問看護師 や外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気 軽に相談できる関係であり大変心強い。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ホームには看護師がおり健康管理や、急病時に適切な 対応がとれている。また、協力医療機関の訪問看護師 や外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気 軽に相談できる関係であり大変心強い。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取 り合い、早期に退院できるよう働きかけ、入院による 利用者様のダメージを最小限にできるよう努力してい る。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取 り合い、早期に退院できるよう働きかけ、入院による 利用者様のダメージを最小限にできるよう努力してい る。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重度化や看取りに関して指針を定めている。看取りに 関する研修にも参加し、運営推進会議でも報告した。 利用者様ごとに状況を見ながら、ホームがどのような 支援を行えるのか、その都度検討しながら実施してい きたい。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人ご 家族の希望を聞き取りながら、事業所で出来ること出 来ないことについて説明されており、重度化した場合 には、ご家族、訪問看護師、医師、管理者で話し合 うようにされている。現在、事業所での看取りを希望さ れる利用者もあり、事業所では、ご本人ご家族の希望 に応じた支援ができるよう努めておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の講習を受けたり、ミーティングで対応を話している。今年度は所内研修で緊急時の対応を学んだ。さらに、勉強会を重ね、実践力を身につけていきたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、4月と10月には消防に来ていただき、入居者様も共に避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使用方法も学んでいる。また、近隣の方へは、日頃のお付き合ひの中で、災害時に協力が得られるよう働きかけている。 (外部評価) 年2回の避難訓練時には、消防署の協力を得て、消火器の使い方を教わったり、火災通報装置の使用方法の訓練や利用者の避難経路も確認されている。事業所では最近、オール電化にされ、10日毎にコンセントの掃除もされている。地震に備えて食器棚やテレビ等は固定されていた。	事業所の近くに活断層があるということもあり、管理者は、地震の際の避難訓練にも取り組んでいきたいと考えておられた。利用者、職員の安心と安全に向け、事業所の自主防災の取り組み等を重ねていかれてほしい。
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩である利用者様には常に敬意をはらって接し、さりげない介助(言葉遣いなど)、尊重した声かけを行うよう、毎月のミーティングで再確認している。また利用者様の個人情報についても、外部に漏らすことのないよう、責任ある取り扱いをするよう話している。 (外部評価) 職員は、食事介助の際、声かけ等、周りの利用者にも気遣いながら介助されていた。排泄の誘導時には「子供じゃない、一人で行く」と言われる利用者には、自主性等も大切にしておられた。	紙おむつ等、介護用品の収納や整理について配慮できることはないか、話し合ってみてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様に合わせた声掛けを行い、できる方には自己決定していただいている。ただ、意思表示が困難な方には表情や行動を見て職員が察知しながら自己決定できるように促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの中で、なるべく利用者様の思いに沿った自由な生活ができるように支援している。介助を要する時には、職員の勤務の都合に合わせる場面もあるので、今後の課題にしていきたい。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、身だしなみが整えられるよう支援している。散髪や髪染めも本人の希望に沿ってなじみの理・美容室に出かけ、おしゃれが楽しめるようにしている。四季を通じ、清潔に心がけている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様と毎日スーパーへ食材を買いに行き、おやつもなるべく利用者様に考えて選んでいただいている。庭でとれた野菜を使って季節の物を取り入れ、彩りや栄養価も考えながら、楽しい食卓になるよう努力している。料理の下ごしらえや調理、盛り付け、後片付けなど、毎日利用者様と一緒にやっている。 (外部評価) 調査訪問時、利用者がすり鉢でごまをすったり、サツマイモの皮をむいて昼食の支度を職員とともにされていた。事業所では、噛む力のある間は、食材の切り方や柔らかさ等、調理を工夫して形のある食事を提供できるよう支援されている。介助の必要な方の中には、スプーンよりもお箸の方が食事がすすむような方もあり、それぞれの状態等もみながら支援されている。食事時、利用者が「一人の食事は寂しいけど、みんなと食べると美味しいね」と話されていた。職員は、お茶のお代わりをすすめられたり、「梅干しはいかがですか」と聞いておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気を付け、1日の水分量が1200CC以上になるよう努めており、記録に残している。バランスの良い献立にし、利用者様のその日その日の身体の状態に応じた量や作り方を考えながら味付け、切り方など気を付けている。また、認知症の重度化により、十分な食事量がとれない場合は、主治医と相談して経管栄養剤なども利用している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のうがいや、歯磨き、就寝前の義歯のケアができるよう声掛けや洗面所への誘導を行い、口腔ケアに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握に努め、配慮のある声掛けにより、トイレへの時間誘導を実施しながら気持ちよく排泄できるように支援している。また、無理強いすることなく、トイレに行こうとされた時にさりげなく見守りや介助を行い、不衛生にならないように気をつけている。	
			(外部評価) 入院中、紙おむつを使用されていた方にも声かけや誘導で支援して、現在は、布パンツに紙パットにされている方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取に気を付け、繊維質の多い野菜が献立に出るようにしている。また、個々の利用者様に合わせ、便秘解消の食材や果物を提供するなど、便秘改善に向け働きかける努力をしている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 見守りをしながら入浴される方がほとんどであるため、気持ちよく入浴していただけるよう、利用者様の好みに合わせて会話をしたり、歌を歌うなどして、楽しく入浴ができるよう努力している。時間帯等は職員の都合に合わせてしまう場合がある。	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるように支援されている。午前中、職員の人手がある時に、利用者がゆっくり入浴できるよう支援されている。石けんやボディシャンプーを使用されている方や好みの男性用のシャンプーを使っておられる方もある。事業所では、全介助が必要な方が安楽に入浴できるようにリフト浴を設置されており、職員の負担の軽減にもつながっているようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼間はできるだけ活動的に過ごしていただき、夜間は良眠できるように買い物にお誘いしたり、散歩をしたりしながら、一人一人の生活リズムが継続できるように支援している。入居者様の生活リズムでお昼寝をされる方もおられる。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬がないよう職員2人で確認し合うようになっている。お薬手帳や説明書はいつでも確認できるよう、目につくところに置き、薬の把握に努めている。また、服薬後は症状に変化がないか観察するなど、気を配っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様1人1人の趣味や役割など、できることを見つけるのは難しいが、毎日の料理、外出、お散歩、縫い物など、ホーム内での気分転換やホーム外でのストレス解消などができるよう努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物には必ず、入居者様に声をかけてお誘いしている。近くへの散歩は行っているが、職員の手配の都合や利用者様の身体の状況、車の運転等もあり、遠方への外出は十分にできていない。 (外部評価) 職員は、利用者と一緒に近くの法人の系列グループホームを訪ねたり、朝、散歩をするような方もいる。町内の七折れの梅の花や市外にコスモスを見に出かけることもある。	利用者の行ってみたいところや懐かしい場所等をたずねたり、外出がむつかしいような方の外出支援についても工夫を重ねていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金を所持して管理されている方は、現在は1名のみである。ただ、管理できない方も買い物に行く際に家族様から預かっているお小遣いもち、買い物をした後で職員が介助しながら支払うことができるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 現在は自分で自由に電話をできる利用者様がおられないので、希望された時には職員がダイヤルプッシュをし、会話を楽しんでいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>和風住宅を改築しており、家庭的な雰囲気がある。昨年には利用者様が更に居心地の良い空間で生活していけるよう、増築を行った。玄関には常に花や季節感のある飾り付けを行っている。また、季節に応じて室温や光や音には気を配り、不快な空間とならないよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関、居間には季節の花が飾られていた。事業所は増築されて居間等、利用者が過ごす場所が広がっており、個々が思い思いの場所で過ごしておられた。神棚には、利用者のお宅からいただいたものを供えておられた。居間の隅に竹すみを置いて消臭等にも配慮されている。調査訪問時、テラスには、布団を干しておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様が自由に過ごしていただける空間となっている。また、家族様が来られた時にはお茶を飲みながら一緒に過ごされることもあったり、気の合う利用者同士がお部屋でお話されたりしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れた物や馴染みの品を持って来ていただけるよう、家族様に声掛けし、過ごしやすいお部屋となるよう努めている。持って来られる物が少ない利用者様には、担当者が買い物に行った際、小物などを購入し、お部屋を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、ご本人やご家族と相談しながら居室の環境作りをされており、居室には使い慣れたタンス、ソファ、籐の椅子や使い慣れた座布団もあった。ひ孫さんの写真やご家族が来られた際に撮ったご家族と一緒に写った写真を飾っておられる方もあった。ご家族のお位牌には、しきびが生けられてあり、毎日お茶等を供えておられる。職員と一緒に掃除する方もある。調査訪問時には、居室の窓を開けて空気の入れ換えをされていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>バリアフリーの造りではないが、随所に手すりを配置し、利用者様が安全に移動していただけるよう配慮している。また、場所に対する混乱がないよう、トイレの表示や自室の名札などをつけて、分かりやすくしている。</p>	